



小林幸聖医師



三河貴裕総合診療科・感染症科部長

やま
なし

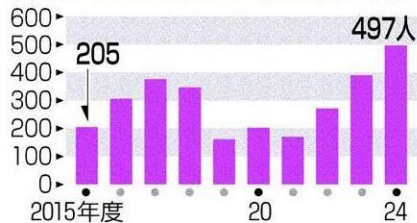
医療

最前線

県立中央病院から
〈315〉

病気の症状の原因がはっきりと分からず、何科を受診したら良いのか分からない。このような患者の健

山梨県立中央病院 総合診療科・感染症科を受診した入院患者の推移



専門領域こたわらず治療

総合診療科 10年で患者2倍超

き合っている。

総合診療科・感染症科は、診療科がまたがる複数の病気がある患者や、症状

からは診断が難しい患者に対応。さまざまな感染症が疑われる患者も受け入れ

瘍、熱帯地方でみられる感染症の診断にも至ったことがあるという。

「病気を複数抱えたり、病気の原因が分からなかったりする患者では、各診療科のはさまに落ちてしまう

足が向かなかった」「家族関係が良くない」「経営者なので入院したら経営が傾く」。丁寧に問診し、患者の生活背景や治療法への考え方なども含めてしっかりと理解した上で、最適な医療を提供していくのが総合診療科・感染症科の本質だという。

る。外来診療で地域のかかりつけ医から紹介を受けるだけでなく、原因不明の発熱・食欲不振などがある入院患者も診察する。

場合がある」と同科の三河貴裕部長。「自分たちの専門領域にこたわらず、分かんなければ常に勉強を怠らないようにしている」と力を込める。

2024年度には、専門的な血液関連の病気にも対応するようになり、受診した入院患者は497人と過去最多を更新。開設初年度の15年度と比べても2・4倍(2092人増)となった。

県内最大規模の総合病院としてのメリットを生かし、院内の専門医の助言も受けながら、病気の原因や最善の治療法を探る。これまでにまれながんや血液腫

初診は30分から1時間程度かけ、心や体の病気がないか診察する。「治療する経済的余裕がなかった」「自宅から医療機関まで遠くて

「他の科では分からなかった病気を見つけ、患者の治療に力を尽くしたい」と話している。

Ⅱ第2、4火曜日に掲載します